

池田市地域福祉計画の策定に向けたアンケート調査 結果報告

抽出方法	池田市内に在住する 18 歳以上の市民 3,000 人を 住民基本台帳により無作為抽出
実施時期	令和 3 (2021) 年 7 月 7 日 ~7 月 30 日を基本と し、9 月上旬まで回収
配布数	3,000
有効回答数	1,430
有効回答率	47.6%

2021 年 10 月 19 日

問1 あなたとご家族のことについて

(1)性別

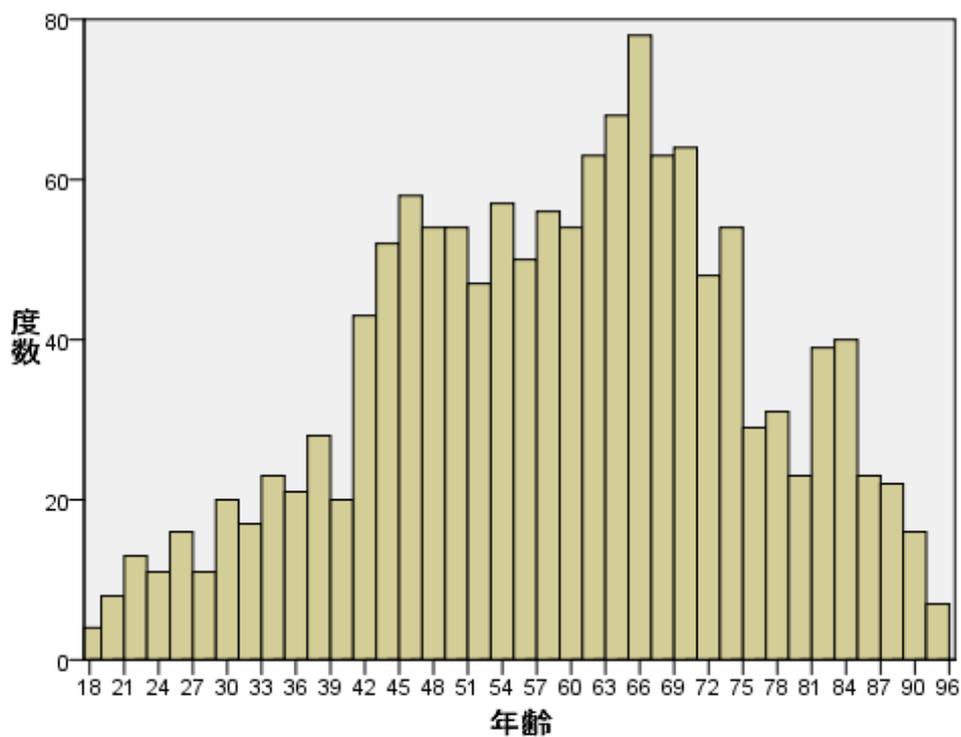
		性別			
		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男性	608	42.5	42.9	42.9
	女性	807	56.4	57.0	99.9
	その他	1	.1	.1	100.0
	合計	1416	99.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	14	1.0		
合計		1430	100.0		

性別では、男性 608 人（42.5%）、女性 807 人（56.4%）、その他 1 人（0.1%）となっている。

(2)年齢

	人数	最年少	最高齢	平均値	標準偏差
年齢	1386	18	96	58.41	16.447

年齢では、最年少が18歳、最高齢が96歳、平均が58.4歳となっている。



年齢階層別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	18～39歳	183	12.8	13.2	13.2
	40～64歳	665	46.5	48.0	61.2
	65歳以上	538	37.6	38.8	100.0
	合計	1386	96.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	44	3.1		
合計		1430	100.0		

年齢階層別では、18～39歳が183人（12.8%）、40～64歳665人（46.5%）、65歳以上538人（37.6%）となっている。

問3 職業

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	正規職員・従業員	407	28.5	28.9	28.9
	契約社員・派遣社員	93	6.5	6.6	35.5
	パート・アルバイト	191	13.4	13.5	49.0
	自営業・家族従業員	95	6.6	6.7	55.7
	自由業	21	1.5	1.5	57.2
	家事専業	195	13.6	13.8	71.1
	学生	24	1.7	1.7	72.8
	無職(年金生活など)	363	25.4	25.7	98.5
	その他	21	1.5	1.5	100.0
	合計	1410	98.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	20	1.4		
合計		1430	100.0		

職業では、正規職員・従業員がもっとも多く407人(28.5%)となっており、次いで無職365人(25.4%)、家事専業195人(13.6%)、パート・アルバイト191人(13.4%)、自営業・家族従業員95人(6.6%)、契約社員・派遣社員93人(6.5%)、学生24人(1.7%)、その他21人(1.5%)となっている。

職業 と 年齢別 のクロス表

職業		年齢別			合計
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	
正規職員・従業員	度数	99	274	27	400
	職業の%	24.8%	68.5%	6.8%	100.0%
契約社員・派遣社員	度数	10	59	24	93
	職業の%	10.8%	63.4%	25.8%	100.0%
パート・アルバイト	度数	19	127	42	188
	職業の%	10.1%	67.6%	22.3%	100.0%
自営業・家族従業員	度数	5	63	27	95
	職業の%	5.3%	66.3%	28.4%	100.0%
自由業	度数	1	13	7	21
	職業の%	4.8%	61.9%	33.3%	100.0%
家事専業	度数	17	75	97	189
	職業の%	9.0%	39.7%	51.3%	100.0%
学生	度数	24	0	0	24
	職業の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
無職(年金生活など)	度数	3	47	295	345
	職業の%	0.9%	13.6%	85.5%	100.0%
その他	度数	2	7	12	21
	職業の%	9.5%	33.3%	57.1%	100.0%
合計	度数	180	665	531	1376
	職業の%	13.1%	48.3%	38.6%	100.0%

P<.001

職業と年齢階層別とのクロス集計では、正規職員・従業員では、18～39歳、40～64歳の年齢層の数値が高くなっている。

40～64歳の年齢層では、契約社員・派遣社員、パート・アルバイト、自営業・家族従業員、自由業の数値が高くなっており、65歳以上では無職（年金生活など）が高くなっている。

問 4 健康状態

		健康状態			
		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よい	523	36.6	37.1	37.1
	普通	761	53.2	54.0	91.2
	悪い	124	8.7	8.8	100.0
	合計	1408	98.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	22	1.5		
合計		1430	100.0		

健康状態では、よい 523 人 (36.6%)、普通 761 人 (53.2%)、悪い 124 人 (8.7%) となっている。

健康状態 と 年齢階層別 のクロス表

			年齢別			合計
			18~39歳	40~64歳	65歳以上	
健康状態	よい	度数	110	292	111	513
		健康状態の%	21.4%	56.9%	21.6%	100.0%
	普通	度数	67	328	345	740
		健康状態の%	9.1%	44.3%	46.6%	100.0%
	悪い	度数	5	36	80	121
		健康状態の%	4.1%	29.8%	66.1%	100.0%
合計	度数	182	656	536	1374	
	健康状態の%	13.2%	47.7%	39.0%	100.0%	

$P < .01$

健康状態と年齢階層別とのクロス集計では、18~39歳では「よい」が、65歳以上では「悪い」との回答が有意に高い数値となっている。

(5)一緒にお住まいの方

世帯構成		N=1430	
		人数	パーセント
有効	ひとり暮らし	194	13.6
	夫婦のみ	431	30.1
	二世帯(親と子)	671	46.9
	三世帯(親と子と孫)	67	4.7
	きょうだい	22	1.5
	その他	45	3.1

世帯構成では、二世帯(親と子)が671人(46.9%)と最も多く、次いで夫婦のみ431人(30.1%)、ひとり暮らし194(13.6%)、三世帯(親と子と孫)67人(4.7%)となっている。

(6)一諸に住んでいる人の状況

同居している人の状況		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 18歳未満の子ども	303	21.2
	2. 65歳以上の高齢者	488	34.1
	3. 寝たきりの人	13	0.9
	4. 病気で療養中の人	41	2.9
	5. ひとり親家庭の親子	78	5.5
	6. 障がいのある人	103	7.2
	7. ひとり親家庭の親子	36	2.5
	8. 閉じこもりや引きこもりの人	25	1.7
	9. 経済的に困っている人	33	2.3
	10. その他、何らかの手助け・支援を必要とする人	47	3.3
	11. あてはまる人は誰もいない	424	29.7

同居している人の状況としては、65歳以上の高齢者が488人(34.1%)と最も多く、次いで18歳未満の子ども303人(21.2%)、障害のある人103人(7.2%)、ひとり親家庭の親子78人(5.5%)となっている。

(7)お住まいの地区

居住地区(小学校区)

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	池田校区	192	13.4	14.7	14.7
	五月丘校区	105	7.3	8.0	22.8
	細郷(旧伏尾台)校区	68	4.8	5.2	28.0
	細郷(旧細河)校区	55	3.8	4.2	32.2
	秦野校区	144	10.1	11.0	43.2
	呉服校区	144	10.1	11.0	54.3
	神田校区	126	8.8	9.7	63.9
	緑丘校区	110	7.7	8.4	72.3
	北豊島校区	152	10.6	11.6	84.0
	石橋南校区	83	5.8	6.4	90.3
	石橋校区	126	8.8	9.7	100.0
	合計		1305	91.3	100.0
	欠損値	システム欠損値	125	8.7	
合計		1430	100.0		

居住圏域

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	池田・五月丘	297	20.8	22.8	22.8
	細郷・秦野	267	18.7	20.5	43.2
	呉服・神田・緑丘	380	26.6	29.1	72.3
	北豊島・石橋	361	25.2	27.7	100.0
	合計	1305	91.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	125	8.7		
合計		1430	100.0		

居住地区(小学校区)では、池田校区、秦野校区、北豊島校区、呉服校区の数値が10%を超えており、細郷(旧細河)と細郷(旧伏尾台)が5%をきっている。

地域包括支援センターが設置されている4つの居住圏域では、呉服・神田・緑丘圏域の数値が26.6%ともっとも高く、次いで北豊島・石橋が25.2%、池田・五月丘が20.8%、細郷・秦野が18.7%となっている。

(8)住居の形態

		住居の形態			
		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	一戸建ての持ち家	734	51.3	52.1	52.1
	分譲マンション	307	21.5	21.8	73.9
	民間借家・賃貸マンション・アパート	277	19.4	19.7	93.6
	市営・府営の賃貸住宅	54	3.8	3.8	97.4
	社宅・寮	16	1.1	1.1	98.6
	その他	20	1.4	1.4	100.0
	合計	1408	98.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	22	1.5		
合計		1430	100.0		

住居の形態では、一戸建ての持ち家が734人(51.3%)と最も多く、次いで分譲マンション307人(21.5%)となっており、約73%が住居を所有している。

(9)居住年数

		居住年数			
		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	生まれてからずっと	90	6.3	6.5	6.5
	3年未満	135	9.4	9.7	16.2
	3年以上10年未満	265	18.5	19.1	35.3
	10年以上20年未満	308	21.5	22.2	57.5
	20年以上	590	41.3	42.5	100.0
	合計	1388	97.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	42	2.9		
合計		1430	100.0		

居住年数では、20年以上が590人(41.3%)と最も多く、次いで10年以上20年未満308人(21.5%)、3年以上10年未満265人(18.5%)となっている。

「生まれてからずっと」が90人(6.3%)なので、20年以上とあわせると約48%となる。10年以上では、約70%となる。

問 2 「地域」として感じる範囲

「地域」として感じる範囲

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	自宅周辺の近隣(隣近所)	306	21.4	21.8	21.8
	町会・自治会の範囲	351	24.5	25.0	46.8
	小学校区	361	25.2	25.7	72.5
	中学校区	145	10.1	10.3	82.8
	池田市全域	219	15.3	15.6	98.4
	その他	22	1.5	1.6	100.0
	合計	1404	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	26	1.8		
合計		1430	100.0		

「地域」と感じている範囲では、小学校区の 361 人 (25.2%)、町会・自治会の範囲が 351 人 (24.5%)、自宅周辺の近隣 (隣近所) が 306 人 (21.4%) とほぼ同じ数値になっており、小学校区がそれより狭い範囲で約 70% となる。

池田市全域は 219 人 (15.3%) で、中学校区の 145 人 (10.1%) より多くなっている。

問 3 「地域」への愛着

地域への愛着

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たいへん愛着を感じている	316	22.1	22.4	22.4
	まあまあ愛着を感じている	895	62.6	63.3	85.7
	あまり愛着を感じていない	164	11.5	11.6	97.3
	まったく愛着を感じていない	38	2.7	2.7	100.0
	合計	1413	98.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	17	1.2		
合計		1430	100.0		

地域への愛着では、「まあまあ愛着を感じている」が 895 人 (62.6%) でもっとも高く、「たいへん愛着を感じている」 316 人 (22.1%) とわせると、約 85% が「愛着を感じている」と回答している。

地域への愛着と性別とのクロス表

		地域への愛着				合計	
		たいへん愛着を 感じている	まあまあ愛着を 感じている	あまり愛着を感 じていない	まったく愛着を 感じていない		
性別	男性	度数	153	362	72	17	604
		性別の%	25.3%	59.9%	11.9%	2.8%	100.0%
	女性	度数	162	525	90	21	798
		性別の%	20.3%	65.8%	11.3%	2.6%	100.0%
	その他	度数	0	0	1	0	1
		性別の%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	315	887	163	38	1403
		性別の%	22.5%	63.2%	11.6%	2.7%	100.0%

P<.05

地域への愛着を性別でみると、男性のほうが「大変愛着を感じている」との回答がやや多く、「まあまあ愛着を感じている」は女性のほうでやや多くなっている。

地域への愛着と年齢下層別とのクロス表

		地域への愛着				合計	
		たいへん愛着を 感じている	まあまあ愛着を 感じている	あまり愛着を 感じていない	まったく愛着を 感じていない		
年齢 階層別	18～39歳	度数	41	111	16	12	180
		年齢別の%	22.8%	61.7%	8.9%	6.7%	100.0%
	40～64歳	度数	136	425	85	16	662
		年齢別の%	20.5%	64.2%	12.8%	2.4%	100.0%
	65歳以上	度数	133	332	57	9	531
		年齢別の%	25.0%	62.5%	10.7%	1.7%	100.0%
合計		度数	310	868	158	37	1373
		年齢別の%	22.6%	63.2%	11.5%	2.7%	100.0%

P<.01

地域への愛着を年齢階層別でみると、「たいへん愛着を感じている」では65歳以上でやや高く、「まあまあ愛着を感じている」では40～64歳の年齢層でやや高くなっている。

地域への愛着と居住年数とのクロス表

			地域への愛着				
			たいへん愛着 を感じている	まあまあ愛着を 感じている	あまり愛着を 感じていない	まったく愛着を 感じていない	合計
居住年数	生まれてから	度数	37	50	2	1	90
	ずっと	居住年数の%	41.1%	55.6%	2.2%	1.1%	100.0%
3年未満		度数	27	70	24	12	133
		居住年数の%	20.3%	52.6%	18.0%	9.0%	100.0%
3年以上10年未満		度数	42	173	43	7	265
		居住年数の%	15.8%	65.3%	16.2%	2.6%	100.0%
10年以上20年未満		度数	52	207	38	11	308
		居住年数の%	16.9%	67.2%	12.3%	3.6%	100.0%
20年以上		度数	146	383	53	6	588
		居住年数の%	24.8%	65.1%	9.0%	1.0%	100.0%
合計		度数	304	883	160	37	1384
		居住年数の%	22.0%	63.8%	11.6%	2.7%	100.0%

P<.001

地域への愛着と居住年数との関係では、「たいへん愛着を感じている」では「生まれたからずっと」で41.1%と高く、「まあまあ愛着を感じている」では10年以上20年未満の層で高くなっている。

逆に3年未満では、「あまり愛着を感じていない」「まったく愛着を感じていない」との数値が高くなっている。

地域への愛着と居住圏域とのクロス表

			地域への愛着				
			たいへん愛着 を感じている	まあまあ愛着を 感じている	あまり愛着を 感じていない	まったく愛着を 感じていない	合計
居住圏域	池田・五月丘	度数	80	180	30	3	293
		居住圏域の%	27.3%	61.4%	10.2%	1.0%	100.0%
細郷・秦野		度数	61	165	31	10	267
		居住圏域の%	22.8%	61.8%	11.6%	3.7%	100.0%
呉服・神田・緑丘		度数	89	253	27	7	376
		居住圏域の%	23.7%	67.3%	7.2%	1.9%	100.0%
北豊・石橋		度数	69	230	48	10	357
		居住圏域の%	19.3%	64.4%	13.4%	2.8%	100.0%
合計		度数	299	828	136	30	1293
		居住圏域の%	23.1%	64.0%	10.5%	2.3%	100.0%

P<.05

「たいへん愛着を感じてる」は池田・五月丘圏域で高く、「まあまあ愛着を感じている」は呉服・神田・緑丘圏域で、「あまり愛着を感じていない」は北豊・石橋圏域で、「まったく愛着を感じていない」は細郷・秦野で、それぞれ高い数値になっている。

問 4 地域の住みやすさ

地域の住みやすさ

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	住みやすい	505	35.3	35.7	35.7
	まあ住みやすい	671	46.9	47.4	83.1
	どちらともいえない	138	9.7	9.8	92.9
	やや住みにくい	74	5.2	5.2	98.1
	住みにくい	27	1.9	1.9	100.0
	合計	1415	99.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	15	1.0		
合計		1430	100.0		

地域の住みやすさについては、「まあ住みやすい」が671人（46.9%）と最も多く、次いで「住みやすい」が505人（35.3%）となっており、あわせると約82%になる。

地域の住みやすさと性別とのクロス表

			地域の住みやすさ					
			住みやす い	まあ住みや すい	どちらとも いえない	やや住みに くい	住みにくい	合計
性別	男性	度数	227	276	63	30	9	605
		性別の%	37.5%	45.6%	10.4%	5.0%	1.5%	100.0%
	女性	度数	276	393	72	42	18	801
		性別の%	34.5%	49.1%	9.0%	5.2%	2.2%	100.0%
	その他	度数	0	0	0	1	0	1
		性別の%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	503	669	135	73	27	1407
		性別の%	35.7%	47.5%	9.6%	5.2%	1.9%	100.0%

P<.01

性別でみてみると、男性では「住みやすい」が、女性では「まあ住みやすい」の数値がやや高くなっている。

地域の住みやすさと居住圏域とのクロス表

		地域の住みやすさ					合計
		住みやすい	まあ住みやすい	どちらともいえない	やや住みにくい	住みにくい	
居住圏域	池田・五月丘 度数	125	131	21	12	3	292
	居住圏域の%	42.8%	44.9%	7.2%	4.1%	1.0%	100.0%
細郷・秦野	度数	75	135	21	27	9	267
	居住圏域の%	28.1%	50.6%	7.9%	10.1%	3.4%	100.0%
呉服・神田・緑丘	度数	152	174	36	10	4	376
	居住圏域の%	40.4%	46.3%	9.6%	2.7%	1.1%	100.0%
北豊・石橋	度数	119	177	43	14	6	359
	居住圏域の%	33.1%	49.3%	12.0%	3.9%	1.7%	100.0%
合計	度数	471	617	121	63	22	1294
	居住圏域の%	36.4%	47.7%	9.4%	4.9%	1.7%	100.0%

P<.001

地域の住みやすさと年齢階層、居住年数との間には有意差が認められなかったが、居住圏域との間には有意な差が認められた。

上表のように「住みやすい」との数値は池田・五月丘圏域で高く、「まあ住みやすい」には圏域による大きな差を認められないが、「どちらともいえない」は北豊・石橋圏域で高く、「やや住みにくい」と「住みにくい」は細郷・秦野圏域で高くなっている。

問 5 ご近所とのつきあいの程度

近所づきあいの程度

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	どんなことでも相談し合える人がある	48	3.4	3.4	3.4
	内容によっては相談し合える人がある	229	16.0	16.2	19.6
	世間話をする程度の人はいらる	341	23.8	24.2	43.8
	あいさつをする程度の人はいらる	581	40.6	41.2	85.0
	ほとんど近所づきあいがな	135	9.4	9.6	94.6
	まったく関わりがな	76	5.3	5.4	100.0
	合計	1410	98.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	20	1.4		
合計		1430	100.0		

近所づきあいの程度では、「あいさつをする程度の人はいらる」がもっとも多く 581 人 (40.6%) になっており、次いで「世間話をする程度はいる」が 341 人 (23.8%)、「内容によっては相談し合える人がある」が 229 人 (16.0%) となっている。「どんなことでも相談し合える人がある」は 48 人 (3.4%) ともっとも少なくなっている。

逆に「ほとんど近所づきあいがな」が 135 人 (9.4%)、「まったく関わりがな」が 76 人 (5.3%) となっており、あわせると約 15%になる。

近所づきあいの程度と性別とのクロス表

		近所づきあいの状態					合計		
		どんなことでも相談し合える人がある	内容によっては相談し合える人がある	世間話をする程度の人はいらる	あいさつをする程度の人はいらる	ほとんど近所づきあいがな		まったく関わりがな	
性別	男性	度数	15	69	139	278	65	38	604
		性別の%	2.5%	11.4%	23.0%	46.0%	10.8%	6.3%	100.0%
	女性	度数	33	159	198	297	70	38	795
		性別の%	4.2%	20.0%	24.9%	37.4%	8.8%	4.8%	100.0%
	その他	度数	0	0	0	1	0	0	1
		性別の%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	合計	度数	48	228	337	576	135	76	1400
		性別の%	3.4%	16.3%	24.1%	41.1%	9.6%	5.4%	100.0%

P<.001

性別とのクロス集計では、「どんなことでも相談し合える人がある」と「内容によっては相談し合える人がある」では女性の数値が高く、「世間話をする程度はいる」「ほとんど近所づきあいがな」「まったく関わりがな」では、男性の数値が高くなっている。

近所づきあいの程度と年齢階層とのクロス表

		近所づきあいの状態							
		どんなことでも相談し合える人がいる	内容によっては相談し合える人がいる	世間話をする程度の人はい	あいさつをする程度の人はい	ほとんど近所づきあいが	まったく関わりがない	合計	
年齢別	18～	度数	9	16	26	82	19	28	180
	39歳	年齢別の%	5.0%	8.9%	14.4%	45.6%	10.6%	15.6%	100.0%
	40～	度数	14	98	153	288	74	36	663
	64歳	年齢別の%	2.1%	14.8%	23.1%	43.4%	11.2%	5.4%	100.0%
	65歳	度数	24	108	152	194	40	9	527
	以上	年齢別の%	4.6%	20.5%	28.8%	36.8%	7.6%	1.7%	100.0%
合計		度数	47	222	331	564	133	73	1370
		年齢別の%	3.4%	16.2%	24.2%	41.2%	9.7%	5.3%	100.0%

P<.001

年齢階層とのクロス集計では、18～39歳では「どんなことでも相談し合える人がいる」と「まったく関わりがない」の両極の数値が高くなっており、65歳以上では「内容によっては相談し合える人がいる」と「世間話をする程度はい」の数値が高くなっており、40～64歳では「ほとんど近所づきあいがい」の数値が高くなっている。

近所づきあいの程度と居住年数とのクロス表

		近所づきあいの状態							
		どんなことでも相談し合える人がいる	内容によっては相談し合える人がいる	世間話をする程度の人はい	あいさつをする程度の人はい	ほとんど近所づきあいが	まったく関わりがない	合計	
居住年数	生まれか	度数	4	19	16	41	5	5	90
	らずと	居住年数の%	4.4%	21.1%	17.8%	45.6%	5.6%	5.6%	100.0%
3年未満		度数	5	8	15	58	27	20	133
		居住年数の%	3.8%	6.0%	11.3%	43.6%	20.3%	15.0%	100.0%
3年以上10年未満		度数	10	32	62	103	32	26	265
		居住年数の%	3.8%	12.1%	23.4%	38.9%	12.1%	9.8%	100.0%
10年以上20年未満		度数	1	45	76	130	41	13	306
		居住年数の%	0.3%	14.7%	24.8%	42.5%	13.4%	4.2%	100.0%
20年以上		度数	25	119	167	237	29	10	587
		居住年数の%	4.3%	20.3%	28.4%	40.4%	4.9%	1.7%	100.0%
合計		度数	45	223	336	569	134	74	1381
		居住年数の%	3.3%	16.1%	24.3%	41.2%	9.7%	5.4%	100.0%

P<.001

居住年数とのクロス集計では、「どんなことでも相談し合える人がある」と「内容によっては相談し合える人がある」では「うまれてからずっと」と20年以上の数値が高くなっている。

「世間話をする程度はある」では20年以上が、「あいさつをする程度の人はある」では「生まれてからずっと」で高くなっている。

逆に3年未満では「ほとんど近所づきあいがいい」と「まったく関わりがない」の数値が高く、3年以上10年未満でも「まったく関わりがない」の数値が高くなっている。

なお、近所づきあいの程度と居住圏域とのクロス集計においては、有意差は求められなかったが、下表のようになっている。

近所づきあいの程度と居住圏域とのクロス表

		近所づきあいの状態					合計	
		内容によっ どんなことでも 相談し合える人 がある	ては相談し 合える人が いる	世間話をす る程度の人 はある	あいさつを する程度の人 はある	ほとんど近 所づきあいが ない		まったく関 わりがない
居 池田・五	度数	8	45	59	133	30	16	291
	居住圏域の%	2.7%	15.5%	20.3%	45.7%	10.3%	5.5%	100.0%
住 月丘	度数	16	53	70	99	21	5	264
	居住圏域の%	6.1%	20.1%	26.5%	37.5%	8.0%	1.9%	100.0%
圏 細郷・秦	度数	13	58	104	149	30	22	376
	居住圏域の%	3.5%	15.4%	27.7%	39.6%	8.0%	5.9%	100.0%
域 野	度数	9	64	91	142	34	18	358
	居住圏域の%	2.5%	17.9%	25.4%	39.7%	9.5%	5.0%	100.0%
呉服・神	度数	46	220	324	523	115	61	1289
	居住圏域の%	3.6%	17.1%	25.1%	40.6%	8.9%	4.7%	100.0%
田・緑丘	度数	46	220	324	523	115	61	1289
	居住圏域の%	3.6%	17.1%	25.1%	40.6%	8.9%	4.7%	100.0%
北豊・石	度数	9	64	91	142	34	18	358
	居住圏域の%	2.5%	17.9%	25.4%	39.7%	9.5%	5.0%	100.0%
橋	度数	46	220	324	523	115	61	1289
	居住圏域の%	3.6%	17.1%	25.1%	40.6%	8.9%	4.7%	100.0%
合計	度数	46	220	324	523	115	61	1289
	居住圏域の%	3.6%	17.1%	25.1%	40.6%	8.9%	4.7%	100.0%

NS

問 6 近所づきあいをしていない理由

近所づきあいをしていない理由

N=792

		人数	パーセント
有効	仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない	520	65.7
	近所づきあいはわずらわしいので避けている	201	25.4
	近所づきあいをしたいが、つい消極的になってしてしまう	167	21.1
	近所づきあいをしたいが、仲間に入れてもらえない	1	0.1
	ふだん留守の家が多いなど、近所づきあいのほとんどないところである	166	20.9
	その他	179	22.6

近所づきあいをしていない理由については「仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない」が520人(65.7%)と最も高い数値になっている。

問 7 お住まいの地域や周辺環境について課題だと思うこと

子どものこと	非常に思う	そう思う	そう思わない あまり	そう思わない	年齢階層との有意差
①出産・育児・子育てに関する情報が十分でない	52 (3.6)	306 (21.4)	708 (49.5)	90 (6.3)	P<.01
②子どものことに関する相談機能が十分でない	44 (3.1)	341 (23.8)	677 (47.3)	89 (6.2)	NS
③子育てに対する支援が得られない	57 (4.0)	260 (18.2)	705 (49.3)	120 (8.4)	P<.05
④子育てに関して不安やストレスがある	38 (2.7)	285 (19.9)	643 (45.0)	171 (12.0)	NS
⑤子どもが巻き込まれる犯罪が多くて不安に思う	67 (4.7)	286 (20.0)	622 (43.5)	183 (12.8)	NS
⑥子どもが安心して外で遊べる場所がない	104 (7.3)	356 (24.9)	569 (39.8)	148 (10.3)	NS
⑦子どものしつけができていない	53 (3.7)	242 (16.9)	753 (52.7)	118 (8.3)	P<.01
高齢者のこと	非常に思う	そう思う	そう思わない あまり	そう思わない	年齢階層との有意差
⑧高齢者が集まったり交流したりする場所や機会がない	69 (4.8)	411 (28.7)	664 (46.4)	95 (6.6)	P<.001
⑨高齢者が自らの力を活かし、社会に貢献する機会がない	85 (5.9)	479 (33.5)	602 (42.1)	69 (4.8)	NS
⑩一人暮らしの高齢者が増えている	249 (17.4)	699 (48.9)	285 (19.9)	25 (1.7)	NS
⑪一人暮らし高齢者への訪問や声掛けが難しい	181 (12.7)	706 (49.4)	316 (22.1)	40 (2.8)	NS
⑫一人暮らしの高齢者、高齢者夫婦の生活不安や閉じこもりが増えている	108 (7.6)	513 (35.9)	556 (38.9)	48 (3.4)	P<.01
⑬介護予防のための取り組みが十分でない	119 (8.3)	534 (37.3)	530 (37.1)	49 (3.4)	NS
⑭介護や支援の仕組みが十分でない	113 (7.9)	498 (34.8)	568 (39.7)	53 (3.7)	NS
⑮高齢者や障がい者が買い物や病院などへ行くための交通手段が乏しい	277 (19.4)	542 (37.9)	397 (27.8)	54 (3.8)	NS

障がい児・者のこと	非常に思う	そう思う	そうあまり 思わない	そう思わ ない	年齢階 層との 有意差
⑯障がい者の働く場所や機会がない	107 (7.5)	569 (39.8)	438 (30.6)	39 (2.7)	P<.05
⑰障がいに関する相談機能が十分でない	93 (6.5)	465 (32.5)	537 (37.6)	40 (2.8)	P<.01
⑱障がい児・者の課題が地域の課題になっていない	120 (8.4)	504 (35.2)	460 (32.2)	35 (2.4)	P<.01
⑲障がい児の早期発見、早期の相談支援システムが十分でない	104 (7.3)	446 (31.2)	532 (37.2)	39 (2.7)	P<.001
⑳障がい児の保育や就学前の教育が十分でない	77 (5.4)	432 (30.2)	567 (39.7)	47 (3.3)	P<.01
㉑障がい児・者医療のサービスが十分でない	80 (5.6)	407 (28.5)	587 (41.0)	48 (3.4)	P<.05
㉒障がい児・者の介護や支援の仕組みが十分でない	91 (6.4)	436 (30.5)	547 (38.3)	44 (3.1)	P<.05
地域や生活のこと	非常に思う	そう思う	そうあまり 思わない	そう思 わない	年齢階 層との 有意差
㉓困ったときに相談できる人がいない	147 (10.3)	538 (37.6)	504 (35.2)	90 (6.3)	NS
㉔近所つきあいが少なくなっている	234 (16.4)	748 (52.3)	276 (19.3)	41 (2.9)	NS
㉕自治会・町内会の役員を積極的に引き受ける人が少なくなっている	305 (21.3)	741 (51.8)	191 (13.4)	30 (2.1)	NS
㉖児童の通学の見守りや小溝清掃・草刈りなどの地域活動などに参加する人が少なくなっている	165 (11.5)	730 (51.0)	323 (22.6)	33 (2.3)	NS
㉗地域住民のマナーが低下している	145 (10.1)	415 (29.0)	662 (46.3)	55 (3.8)	P<.01
㉘不況や高齢化を原因とする生活困窮者が増えている	96 (6.7)	492 (34.4)	595 (41.6)	47 (3.3)	P<.05
㉙高齢者や障害者を対象とした悪徳商法が増えていて不安に思う	204 (14.3)	644 (45.0)	374 (26.2)	42 (2.9)	P<.01
㉚高齢者や障がい者に配慮したバリアフリーの公的施設が少ない	145 (10.1)	591 (41.3)	491 (34.3)	28 (2.0)	P<.05
㉛地震や台風など災害時のことを不安に思う	378 (26.4)	669 (46.8)	240 (16.8)	21 (1.5)	P.<05
㉜災害に備えた避難方法や安否確認体制ができていない	232 (16.2)	635 (44.4)	390 (27.3)	24 (1.7)	NS

◆子どものこと

お住まいの地域や周辺環境について課題だと思うことについて、「子どものこと」では、7項目についてすべて「あまりそう思わない」（＝肯定的な回答）の数値がもっとも高くなっている。

年齢階層とのクロス集計により有意差を検定したところ、「①出産・育児・子育てに関する情報が十分でない」「③子育てに対する支援が得られない」「⑦子どものしつけができていない」で有意差が認められた。

「①出産・育児・子育てに関する情報が十分でない」では、全体としては「あまりそう思わない」の数値が高いが、18～39歳の年齢層では「そう思う」「非常にそう思う」の数値が高くなっている。「③子育てに対する支援が得られない」でも同様の傾向が求められる。

「①出産・育児・子育てに関する情報が十分でない」と年齢階層とのクロス表

		問7①					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	11	88	61	12	172
		年齢別の%	6.4%	51.2%	35.5%	7.0%	100.0%
40～64歳	度数	50	392	142	21	605	
		年齢別の%	8.3%	64.8%	23.5%	3.5%	100.0%
65歳以上	度数	25	208	99	18	350	
		年齢別の%	7.1%	59.4%	28.3%	5.1%	100.0%
合計	度数	86	688	302	51	1127	
		年齢別の%	7.6%	61.0%	26.8%	4.5%	100.0%

P<.01

一方、⑦については下表のように18～39歳で「全くそう思わない」の数値が高く、「あまりそう思わない」も40～64歳で高く、逆に「そう思う」「非常にそう思う」では、65歳以上で高いことから「しつけができていない」との認識は、高齢層でそのように認識されているといえる。

「⑦子どものしつけができていない」と年齢階層とのクロス表

		問7⑦					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう思 う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	30	109	29	6	174
		年齢別の%	17.2%	62.6%	16.7%	3.4%	100.0%
40～64歳	度数	52	411	117	26	606	
		年齢別の%	8.6%	67.8%	19.3%	4.3%	100.0%
65歳以上	度数	34	214	90	21	359	
		年齢別の%	9.5%	59.6%	25.1%	5.8%	100.0%
合計	度数	116	734	236	53	1139	
		年齢別の%	10.2%	64.4%	20.7%	4.7%	100.0%

P<.01

◆高齢者のこと

「高齢者のこと」では、8項目のうち「⑩一人暮らしの高齢者が増えている」と「⑮高齢者や障がい者が買い物や病院などへ行くための交通手段が乏しい」の2項目で「そう思う」と「非常にそう思う」の数値が高くなっている。また「⑪一人暮らし高齢者への訪問や声掛けが難しい」では、「そう思う」の数値が高くなっている。

「⑫一人暮らしの高齢者、高齢者夫婦の生活不安や閉じこもりが増えている」「⑬介護予防のための取り組みが十分でない」「⑭介護や支援の仕組みが十分でない」では、「そう思う」と「あまりそう思わない」の数値が拮抗している。

「⑧高齢者が集まったり交流したりする場所や機会がない」と「⑨高齢者が自らの力を活かし、社会に貢献する機会がない」の2項目では「あまりそう思わない」の数値が高くなっている。

全体的には、「子どものこと」に比べて、「非常にそう思う」「そう思う」（＝否定的・消極的）な数値が高くなっている。

年齢階層とのクロス集計では、次の表のように有意差の求められた「⑧高齢者が集まったり交流したりする場所や機会がない」では、18～39歳と40～64歳の年齢層で「全くそう思わない」「あまりそう思わない」の数値が高く、65歳以上では「そう思う」「非常にそう思う」の数値が高くなって、65歳以上の世代自身が、高齢者が集まったり交流したりする場所や機会がないと回答している。

「⑧高齢者が集まったり交流したりする場所や機会がない」と年齢階層とのクロス表

		問7⑧				合計	
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う		
年齢別	18～39歳	度数	23	102	35	5	165
		年齢別の%	13.9%	61.8%	21.2%	3.0%	100.0%
40～64歳		度数	37	359	184	24	604
		年齢別の%	6.1%	59.4%	30.5%	4.0%	100.0%
65歳以上		度数	34	188	181	38	441
		年齢別の%	7.7%	42.6%	41.0%	8.6%	100.0%
合計		度数	94	649	400	67	1210
		年齢別の%	7.8%	53.6%	33.1%	5.5%	100.0%

P<.001

また、「⑫一人暮らしの高齢者、高齢者夫婦の生活不安や閉じこもりが増えている」では、下表のように18～39歳の年齢層で「全くそう思わない」の数値が高く、40～64歳では「そう思う」が高く、65歳以上では「あまりそう思わない」の数値が高くなっている。

上記の「⑧高齢者が集まったり交流したりする場所や機会がない」では65歳以上の年齢層がそう回答しているのに対して、「⑫一人暮らしの高齢者、高齢者夫婦の生活不安や閉じこもりが増えている」との認識は40～64歳の年齢層では問題視される傾向があるのに対して、18～39歳の層と65歳以上の層ではそのように認識されていない。

18～39歳の層では「我が事」として認識しにくいいため解釈できるが、65歳以上の層においてもそのように認識されていないということに注目する必要がある。

「⑫一人暮らしの高齢者、高齢者夫婦の生活不安や閉じこもりが増えている」と
年齢階層とのクロス表

		問7⑫					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	12	78	62	14	166
		年齢別の%	7.2%	47.0%	37.3%	8.4%	100.0%
	40～64歳	度数	17	254	282	49	602
		年齢別の%	2.8%	42.2%	46.8%	8.1%	100.0%
	65歳以上	度数	18	211	154	43	426
		年齢別の%	4.2%	49.5%	36.2%	10.1%	100.0%
合計		度数	47	543	498	106	1194
		年齢別の%	3.9%	45.5%	41.7%	8.9%	100.0%

P<.01

❖障がい児・者のこと

「障がい児・者のこと」では、7項目中、「⑩障がい者の働く場所や機会がない」と「⑱障がい児・者の課題が地域の課題になっていない」の2項目で「そう思う」（＝否定的・消極的な回答）の数値が高くなっている。

一方、「⑰障がいに関する相談機能が十分でない」「⑲障がい児の早期発見、早期の相談支援システムが十分でない」「⑳障がい児の保育や就学前の教育が十分でない」「㉑障がい児・者医療のサービスが十分でない」「㉒障がい児・者の介護や支援の仕組みが十分でない」の5項目では、「あまりそう思わない」（＝肯定的な回答）の数値が高くなっている。

また、年齢階層とのクロス集計では、7つの項目のすべてに有意差が認められた。

下表のように「⑩障がい者の働く場所や機会がない」での「そう思う」の回答は、65歳以上で高い数値となっている。逆に18～39歳の年齢層では「あまりそう思わない」の数値が高くなっている。

同様に「⑱障がい児・者の課題が地域の課題になっていない」も65歳以上の年齢層で有意に高い数値になっており、両項目ともに18～39歳の年齢層では「あまりそう思わない」の数値が高くなっている。

「⑩障がい者の働く場所や機会がない」と年齢階層とのクロス表

		問7⑩					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	10	74	67	16	167
		年齢別の %	6.0%	44.3%	40.1%	9.6%	100.0%
	40～64歳	度数	19	231	284	55	589
		年齢別の %	3.2%	39.2%	48.2%	9.3%	100.0%
	65歳以上	度数	10	120	203	35	368
		年齢別の %	2.7%	32.6%	55.2%	9.5%	100.0%
合計		度数	39	425	554	106	1124
		年齢別の %	3.5%	37.8%	49.3%	9.4%	100.0%

P<.05

「⑱障がい児・者の課題が地域の課題になっていない」と年齢階層とのクロス表

		問7⑱					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	12	77	58	17	164
		年齢別の %	7.3%	47.0%	35.4%	10.4%	100.0%
	40～64歳	度数	14	244	257	62	577
		年齢別の %	2.4%	42.3%	44.5%	10.7%	100.0%
	65歳以上	度数	9	126	178	39	352
		年齢別の %	2.6%	35.8%	50.6%	11.1%	100.0%
合計		度数	35	447	493	118	1093
		年齢別の %	3.2%	40.9%	45.1%	10.8%	100.0%

P<.01

また、「⑰障がいに関する相談機能が十分でない」「⑲障がい児の早期発見、早期の相談支援システムが十分でない」「⑳障がい児の保育や就学前の教育が十分でない」「㉑障がい児・者医療のサービスが十分でない」「㉒障がい児・者の介護や支援の仕組みが十分でない」の5項目では、「あまりそう思わない」との数値が高くなっている。

下表の「⑰障がいに関する相談機能が十分でない」と年齢階層、「⑲障がい児の早期発見、早期の相談支援システムが十分でない」と年齢階層とのクロス表のように、18～39歳で「あまりそう思わない」との数値が相対的に高く、65歳以上では「非常にそう思う」「そう思う」の数値が高くなっており、他の3項目についても同様の傾向が認められる。

「⑰障がいに関する相談機能が十分でない」と年齢階層とのクロス表

		問7⑰				合計	
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う		
年齢別	18～39歳	度数	13	84	53	16	166
		年齢別の%	7.8%	50.6%	31.9%	9.6%	100.0%
	40～64歳	度数	15	285	240	45	585
		年齢別の%	2.6%	48.7%	41.0%	7.7%	100.0%
	65歳以上	度数	12	154	160	31	357
		年齢別の%	3.4%	43.1%	44.8%	8.7%	100.0%
合計		度数	40	523	453	92	1108
		年齢別の%	3.6%	47.2%	40.9%	8.3%	100.0%

P<.01

「⑲障がい児の早期発見、早期の相談支援システムが十分でない」とのクロス表

		問7⑲				合計	
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う		
年齢別	18～39歳	度数	15	82	54	15	166
		年齢別の%	9.0%	49.4%	32.5%	9.0%	100.0%
	40～64歳	度数	12	296	216	54	578
		年齢別の%	2.1%	51.2%	37.4%	9.3%	100.0%
	65歳以上	度数	12	140	166	34	352
		年齢別の%	3.4%	39.8%	47.2%	9.7%	100.0%
合計		度数	39	518	436	103	1096
		年齢別の%	3.6%	47.3%	39.8%	9.4%	100.0%

P<.001

◆地域や生活のこと

「地域や生活のこと」では、10項目のうち「③地震や台風など災害時のことを不安に思う」と「⑤自治会・町内会の役員を積極的に引き受ける人が少なくなっている」の2項目において、「非常にそう思う」がそれぞれ26.4%、21.3%と20%を超えており、「そう思う」も46.8%と51.8%と高い数値になっている。また、「④近所つきあいが少なくなっている」でも、「非常にそう思う」16.4%、「そう思う」52.3%と高くなっている。

「③困ったときに相談できる人がいない」は「そう思う」と「あまりそう思わない」が35%程度で拮抗しており、「⑥児童の通学の見守りや小溝清掃・草刈りなどの地域活動などに参加する人が少なくなっている」ほか4項目で「そう思う」の数値が高く、「⑦地域住民のマナーが低下している」と「⑧不況や高齢化を原因とする生活困窮者が増えている」の2項目で「あまりそう思わない」が高くなっている。

また、年齢階層とのクロス集計では、「⑦地域住民のマナーが低下している」「⑧不況や高齢化を原因とする生活困窮者が増えている」「⑨高齢者や障害者を対象とした悪徳商法が増えていて不安に思う」「⑩高齢者や障がい者に配慮したバリアフリーの公的施設が少ない」「③地震や台風など災害時のことを不安に思う」の5項目で有意差が認められた。

「⑦地域住民のマナーが低下している」では、18～39歳、40～64歳の年齢層では「全くそう思わない」「あまりそう思わない」の数値が相対的に高く、65歳以上では「非常にそう思う」の数値が高くなっている。

「⑦地域住民のマナーが低下している」と年齢階層とのクロス表

		問7⑦					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	18	85	60	13	176
		年齢別の%	10.2%	48.3%	34.1%	7.4%	100.0%
	40～64歳	度数	23	339	198	70	630
		年齢別の%	3.7%	53.8%	31.4%	11.1%	100.0%
	65歳以上	度数	14	225	144	56	439
		年齢別の%	3.2%	51.3%	32.8%	12.8%	100.0%
合計		度数	55	649	402	139	1245
		年齢別の%	4.4%	52.1%	32.3%	11.2%	100.0%

P<.01

㉔不況や高齢化を原因とする生活困窮者が増えていると年齢階層とのクロス表

		問7㉔					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	13	74	65	16	168
		年齢別の%	7.7%	44.0%	38.7%	9.5%	100.0%
	40～64歳	度数	19	279	260	54	612
		年齢別の%	3.1%	45.6%	42.5%	8.8%	100.0%
	65歳以上	度数	15	228	153	23	419
		年齢別の%	3.6%	54.4%	36.5%	5.5%	100.0%
合計		度数	47	581	478	93	1199
		年齢別の%	3.9%	48.5%	39.9%	7.8%	100.0%

P<.05

「㉔不況や高齢化を原因とする生活困窮者が増えている」では、18～39歳では「まったくそう思わない」、65歳以上では「あまりそう思わない」の数値が相対的に高く、40～64歳において「そう思う」が高くなっている。

「㉕高齢者や障害者を対象とした悪徳商法が増えていて不安に思う」と年齢階層とのクロス表

		問7㉕					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	13	55	78	24	170
		年齢別の%	7.6%	32.4%	45.9%	14.1%	100.0%
	40～64歳	度数	17	190	309	107	623
		年齢別の%	2.7%	30.5%	49.6%	17.2%	100.0%
	65歳以上	度数	12	121	241	64	438
		年齢別の%	2.7%	27.6%	55.0%	14.6%	100.0%
合計		度数	42	366	628	195	1231
		年齢別の%	3.4%	29.7%	51.0%	15.8%	100.0%

P<.01

「㉕高齢者や障害者を対象とした悪徳商法が増えていて不安に思う」では、18～39歳で「まったくそう思わない」の数値が相対的に高く、65歳以上で「そう思う」の数値が高くなっている。

「③高齢者や障がい者に配慮したバリアフリーの公的施設が少ない」と年齢階層のクロス表

		問7③					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	7	80	69	18	174
		年齢別の%	4.0%	46.0%	39.7%	10.3%	100.0%
	40～64歳	度数	10	250	281	77	618
		年齢別の%	1.6%	40.5%	45.5%	12.5%	100.0%
	65歳以上	度数	11	147	230	44	432
		年齢別の%	2.5%	34.0%	53.2%	10.2%	100.0%
合計		度数	28	477	580	139	1224
		年齢別の%	2.3%	39.0%	47.4%	11.4%	100.0%

P<.05

「③地震や台風など災害時のことを不安に思う」と年齢階層のクロス表

		問7③					
		全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	合計	
年齢別	18～39歳	度数	7	27	83	61	178
		年齢別の%	3.9%	15.2%	46.6%	34.3%	100.0%
	40～64歳	度数	7	118	318	193	636
		年齢別の%	1.1%	18.6%	50.0%	30.3%	100.0%
	65歳以上	度数	7	90	251	113	461
		年齢別の%	1.5%	19.5%	54.4%	24.5%	100.0%
合計		度数	21	235	652	367	1275
		年齢別の%	1.6%	18.4%	51.1%	28.8%	100.0%

P<.05

「③高齢者や障がい者に配慮したバリアフリーの公的施設が少ない」「③地震や台風など災害時のことを不安に思う」では、18～39歳の年齢層で「全くそう思わない」の数値が相対的に高く、65歳以上では「そう思う」の数値が高くなっている。

なお、居住圏域とのクロス集計では、「㉔不況や高齢化を原因とする生活困窮者が増えている」と「㉓高齢者や障がい者に配慮したバリアフリーの公的施設が少ない」の2項目において有意差が認められた。

「㉔不況や高齢化を原因とする生活困窮者が増えている」については、相対的に北豊・石橋圏域において「非常にそう思う」の数値が相対的に高く、細郷・秦野圏域において「あまりそう思わない」の数値が高くなっている。また、「㉓高齢者や障がい者に配慮したバリアフリーの公的施設が少ない」では、池田・五月丘圏域で「あまりそう思わない」の数値が相対的に高く、北豊・石橋圏域で「非常にそう思う」の数値が高くなっている。

「㉔不況や高齢化を原因とする生活困窮者が増えている」と居住圏域とのクロス表

			問7㉔				合計
			全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	
居住圏域	池田・五月丘	度数	10	129	106	15	
		居住圏域の%	3.8%	49.6%	40.8%	5.8%	100.0%
	細郷・秦野	度数	6	126	86	8	226
		居住圏域の%	2.7%	55.8%	38.1%	3.5%	100.0%
	呉服・神田・緑丘	度数	17	148	139	26	330
		居住圏域の%	5.2%	44.8%	42.1%	7.9%	100.0%
	北豊・石橋	度数	10	154	119	35	318
		居住圏域の%	3.1%	48.4%	37.4%	11.0%	100.0%
合計		度数	43	557	450	84	1134
		居住圏域の%	3.8%	49.1%	39.7%	7.4%	100.0%

P<.05

「㉓高齢者や障がい者に配慮したバリアフリーの公的施設が少ない」と居住圏域とのクロス表

			問7㉓				合計
			全くそう思 わない	あまりそう 思わない	そう思う	非常にそう 思う	
居住圏域	池田・五月丘	度数	5	122	112	25	
		居住圏域の%	1.9%	46.2%	42.4%	9.5%	100.0%
	細郷・秦野	度数	8	93	108	26	235
		居住圏域の%	3.4%	39.6%	46.0%	11.1%	100.0%
	呉服・神田・緑丘	度数	10	112	177	35	334
		居住圏域の%	3.0%	33.5%	53.0%	10.5%	100.0%
	北豊・石橋	度数	1	117	159	47	324
		居住圏域の%	0.3%	36.1%	49.1%	14.5%	100.0%
合計		度数	24	444	556	133	1157
		居住圏域の%	2.1%	38.4%	48.1%	11.5%	100.0%

P<.01

問 8

地域での活動の参加状況

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	進んで積極的に参加し何らかの役割を持つことがある	49	3.4	3.6	3.6
	求められれば参加し何らかの役割をもつこともある	226	15.8	16.4	20.0
	参加することはあるが役割を持つことはあまりない	194	13.6	14.1	34.1
	関心はあるが参加する機会がない	544	38.0	39.6	73.7
	関心がなく誘われても参加するつもりはない	361	25.2	26.3	100.0
	合計	1374	96.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	56	3.9		
合計		1430	100.0		

地域での活動の参加状況では、「関心はあるが参加する機会がない」が 544 人 (38.0%)、「関心がなく誘われても参加するつもりはない」が 361 人 (25.2%) で高い数値となっており、下表の年齢とのクロス表のようにその傾向は 18～39 歳で強い。

なお、性別や居住圏域とのクロス集計においては、有意差は認められなかった。

「地域での活動の参加状況」年齢階層とのクロス表

		問8地域での活動の参加状況						
		進んで積極的に参加し何らかの役割を持つことがある	求められれば参加し何らかの役割をもつこともある	参加することはあるが役割を持つことはあまりない	関心はあるが参加する機会がない	関心がなく誘われても参加するつもりはない	合計	
年齢別	18～39 歳	度数	2	13	17	86	63	181
		年齢別の %	1.1%	7.2%	9.4%	47.5%	34.8%	100.0%
	40～64 歳	度数	19	118	89	264	163	653
		年齢別の %	2.9%	18.1%	13.6%	40.4%	25.0%	100.0%
	65歳以上	度数	26	89	85	174	127	501
		年齢別の %	5.2%	17.8%	17.0%	34.7%	25.3%	100.0%
合計	度数	47	220	191	524	353	1335	
	年齢別の %	3.5%	16.5%	14.3%	39.3%	26.4%	100.0%	

P<.001

問 9 最近 5 年間で参加したことがある地域活動

最近5年間で参加したことがある地域活動		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 地域のお祭り、ふれあい行事	455	31.8
	2. 高齢者のための福祉活動	74	5.2
	3. 障がいのある人のための福祉活動	28	2.0
	4. 子育て支援のための活動	60	4.2
	5. 子どもの育成のための活動	63	4.4
	6. 清掃・美化や環境保全のための活動	242	16.9
	7. 防災・防犯など地域安全のための活動	121	8.5
	8. 地域連携やまちづくりに関する活動	33	2.3
	9. NPO・ボランティア等の公益活動	66	4.6
	10. 町会・自治会等のその他の地域活動	334	23.4
	11. その他	193	13.5

地域活動への参加状況では、「地域のお祭り、ふれあい行事」が 455 人 (31.8%) ともっとも多く、次いで「清掃・美化や環境保全のための活動」が 242 人 (16.9%)、「町会・自治会等のその他の地域活動」334 人 (23.4%) となっている。

問 10 地域活動に参加して負担に思ったこと

地域活動に参加して負担に思ったこと		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 時間がとられる	320	22.4
	2. 身体的な負担が大きい	156	10.9
	3. 出費が多い	28	2.0
	4. 家族の理解が得られない	12	0.8
	5. 人間関係がわずらわしい	164	11.5
	6. 新しい知識や技術を身につける機会がない	38	2.7
	7. ボランティア活動等についての情報が得にくい	112	7.8
	8. ボランティア活動等について相談できる機関がない	40	2.8
	9. 一緒に活動する仲間が少ない	193	13.5
	10. 活動する場所を確保しにくい	47	3.3
	11. その他	81	5.7
	12. 特にない	415	29.0

地域活動に参加して負担に思ったことでは、「特にない」を除くと、「時間がとられる」320 人 (22.4%) ともっとも多く、次いで「一緒に活動する仲間が少ない」193 人 (13.5%)、「人間関係がわずらわしい」164 人 (11.5%)、「身体的な負担が大きい」156 人 (10.9%) となっている。

問 11 地域活動に参加していない、参加できない理由

地域活動に参加していない、参加できない理由		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 自由な時間がない	377	26.4
	2. 家族の理解が得られない	12	8.0
	3. 人間関係がわずらわしい	242	16.9
	4. 参加申し込みや定期的な参加がわずらわしい	167	11.7
	5. 興味の持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない	308	21.5
	6. 家の近くに活動の場所がない	122	8.5
	7. 参加したいと思う活動の情報が得られない	299	20.9
	8. 出費が多い	23	1.6
	9. ボランティア活動などをするための知識や技術がない	119	8.3
	10. 一諸に活動する仲間がいない	212	14.8
	11. その他	107	7.5
	12. 特になし	266	18.6

地域活動に参加していない、参加できない理由としては、「自由な時間がない」が377人（26.4%）でもっとも多く、次いで「興味の持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない」308人（21.5%）、「参加したいと思う活動の情報が得られない」299人（20.9%）と20%を超えている。

さらに「人間関係がわずらわしい」242人（16.9%）、「一諸に活動する仲間がいない」212人（14.8%）となっている。

問 12 今後、参加してみたと思う活動

今後、参加してみたと思う活動		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 地域のお祭り、ふれあい行事	349	24.4
	2. 高齢者のための福祉活動	118	8.3
	3. 障がいのある人のための福祉活動	71	5.0
	4. 子育て支援のための活動	151	10.6
	5. 子どもの育成のための活動	180	12.6
	6. 清掃・美化や環境保全のための活動	221	15.5
	7. 防災・防犯など地域安全のための活動	172	12.0
	8. 地域連携やまちづくりに関する活動	132	9.2
	9. NPO・ボランティア等の公益活動	122	8.5
	10. 町会・自治会等のその他の地域活動	134	9.4
	11. その他	27	1.9
	12. 特にない	537	37.6

今後、参加してみたと思う活動では、「地域のお祭り、ふれあい行事」が349人（24.4%）ともっとも多く約25%になっている。

2番目以降は10%台になるが、「清掃・美化や環境保全のための活動」221人（15.5%）、「子どもの育成のための活動」180人（12.6%）、「防災・防犯など地域安全のための活動」172人（12.0%）、「子育て支援のための活動」151人（10.6%）となっている。

問 13 町会・自治会の加入状況

町会・自治会の加入状況

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	加入している	667	46.6	47.4	47.4
	加入していない	739	51.7	52.6	100.0
	合計	1406	98.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	24	1.7		
合計		1430	100.0		

町会・自治会の加入状況は、「加入している」が667人（46.6%）と半数を割り込んでいる。

また、居住年数とのクロス集計では、「生まれたからずっと」と「20年以上」では、それぞれ61.4%、58.9%と6割前後となっており、居住年数とのあいだに有意な差が認められる。

居住年数 と町会・自治会の加入状況 のクロス表

		町会・自治会の加入状況		合計	
		加入している	加入していない		
居住年数	生まれてからずっと	度数	54	34	88
		居住年数 の %	61.4%	38.6%	100.0%
3年未満	3年未満	度数	34	97	131
		居住年数 の %	26.0%	74.0%	100.0%
3年以上10年未満	3年以上10年未満	度数	90	169	259
		居住年数 の %	34.7%	65.3%	100.0%
10年以上20年未満	10年以上20年未満	度数	124	181	305
		居住年数 の %	40.7%	59.3%	100.0%
20年以上	20年以上	度数	346	241	587
		居住年数 の %	58.9%	41.1%	100.0%
合計	合計	度数	648	722	1370
		居住年数 の %	47.3%	52.7%	100.0%

P<.001

居住圏域 と町会・自治会の加入状況 のクロス表

		町会・自治会の加入状況		合計	
		加入している	加入していない		
居住圏域	池田・五月丘	度数	154	135	289
		居住圏域 の %	53.3%	46.7%	100.0%
	細郷・秦野	度数	163	103	266
		居住圏域 の %	61.3%	38.7%	100.0%
	呉服・神田・緑丘	度数	183	193	376
		居住圏域 の %	48.7%	51.3%	100.0%
	北豊・石橋	度数	125	232	357
		居住圏域 の %	35.0%	65.0%	100.0%
合計		度数	625	663	1288
		居住圏域 の %	48.5%	51.5%	100.0%

P<.001

また、居住圏域とのクロス集計では、細郷・秦野圏域では61.3%と高く、池田・五月丘圏域が53.3%となっている。

呉服・神田・緑丘圏域はほぼ平均値で、北豊・石橋圏域が35%とかなり低くなっている。

問14 町会・自治会に加入していない理由

町会・自治会に加入していない理由

N=750

		人数	パーセント
有効	住んでいるところに町会・自治会がない	147	19.6
	住んでいるところに町会・自治会があるかどうかわからない	240	32.0
	仕事が忙しくて活動する時間がない	151	20.1
	家事が忙しくて活動する時間がない	21	2.8
	子育てが忙しくて活動する時間がない	20	2.7
	その他	171	22.8
	合計	750	100.0

自治会に加入しない理由としては、「住んでいるところに町会・自治会があるかどうかわからない」が240人（32.0%）でもっとも多く、次いで「仕事が忙しくて活動する時間がない」が151人（20.1%）、「住んでいるところに町会・自治会がない」147人（19.6%）となっている。

問15 情報交換したり、声をかけあったりするなど、助け合いの輪をつくる範囲

助け合いの輪の範囲

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	自宅周辺の近隣(隣近所)	595	41.6	43.6	43.6
	町会・自治会の範囲	447	31.3	32.7	76.3
	小学校区	193	13.5	14.1	90.4
	中学校区	34	2.4	2.5	92.9
	池田市全域	81	5.7	5.9	98.8
	その他	16	1.1	1.2	100.0
	合計	1366	95.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	64	4.5		
合計		1430	100.0		

助け合いの輪の範囲としては、「自宅周辺の近隣（隣近所）」がもっとも多く 595 人（41.6%）で、「町会・自治会の範囲」が 447 人（31.3%）となっており、この 2 つで約 76% になっている。

問 16 だれもが暮らしやすい地域をめざすにあたり、住民として取り組むこと

住民として取り組むこと

N=1430

		人数	パーセント
有効	1. 地域住民同士の交流の促進	639	44.7
	2. 高齢者のみ世帯への見守り	658	46.0
	3. 子育て支援の取り組み	494	34.5
	4. 障がいのある方への支援の取り組み	386	27.0
	5. フードバンクなど経済的に困窮している家庭を支援する取り組み	347	24.3
	6. 食育や健康づくりへの取り組み	270	18.9
	7. 子ども食堂など地域での子ども居場所づくりに関する取り組み	363	25.4
	8. 青少年の健全育成の取り組み	234	25.4
	9. 悪質商法や詐欺等の消費者トラブル防止の取り組み	511	35.7
	10. 火災予防や災害時の避難等の取り組み	658	46.0
	11. 町会や子ども会、老人クラブなどの地域団体による活動を活性化するための取り組み	286	20.0
	12. 差別解消に向けた人権啓発に関する取り組み	135	9.4
	13. 介護予防や認知症予防に関する取り組み	426	29.8
	14. 自殺予防に向けた取り組み	159	11.1
	15. 子どもや高齢者、障がい者などの虐待防止に関する取り組み	332	23.2
	16. その他	47	3.3

「だれもが暮らしやすい地域をめざすにあたり、住民として取り組むこと」では、「高齢者のみ世帯への見守り」と「火災予防や災害時の避難等の取り組み」がいずれも658人（46.0%）でもっとも多く、次いで「地域住民同士の交流の促進」が639人（44.7%）で、この3項目が40%を超えている。

次に30%台では、「悪質商法や詐欺等の消費者トラブル防止の取り組み」511人（35.7%）、「子育て支援の取り組み」494人（34.5%）となっている。

問17 助け合い支え合う地域づくりを進めていくうえでの行政の役割

地域づくりを進めていくうえでの行政の役割

N=1430

	人数	パーセント
有効 1. 困ったときの相談先や福祉サービス等の情報提供	1002	70.1
2. 身近なところで住民同士が相談し合える場の充実	313	21.9
3. 専門職による相談窓口の充実	639	44.7
4. 学校教育や生涯学習等での福祉教育の充実	336	23.5
5. 地域住民の活発な交流や相互扶助の促進	223	15.6
6. 地域における福祉活動の意義・重要性の啓発	143	10.0
7. 住民が主体となった福祉活動を進めるための環境整備	184	12.9
8. ボランティア活動を促進するための支援	233	16.3
9. 福祉活動を牽引する人やリーダーの育成	261	18.3
10. 住民が気軽に利用できる集いの場の充実	475	32.0
11. 誰もが暮らしやすい生活環境づくり	641	44.8
12. 住民同士が相互に交流したり、気軽に相談したりできる場の充実	284	19.9
13. 地域における福祉活動の拠点整備	210	14.7
14. 地域における福祉活動の活動費や運営費などの資金的な援助	283	19.8
15. ひきこもりの方やその家族の方のための支援の充実	242	16.9
16. 経済的に困窮している方への支援	433	30.3
17. 認知症の方等の権擁護(日常生活自立支援事業や成年後見制度)の充実	309	21.6
18. その他	37	2.6

「助け合い支え合う地域づくりを進めていくうえでの行政の役割」では、「困ったときの相談先や福祉サービス等の情報提供」が1002人（70.1%）と突出して高い数値になっており、次いで「誰もが暮らしやすい生活環境づくり」が641人（44.8%）で、「専門職による相談窓口の充実」639人（44.7%）、「住民が気軽に利用できる集いの場の充実」475人（32.0%）、「経済的に困窮している方への支援」433人（30.3%）となっている。

問 18 日常生活での悩みや不安

日常生活での悩みや不安		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 自分や家族の健康のこと	860	60.1
	2. 自分や家族の介護・介助のこと	453	31.7
	3. 子育てに関すること	130	9.1
	4. 子どもの教育や将来のこと	236	16.5
	5. 老後の暮らしに関すること	593	46.1
	6. 働くこと(就職や失業の不安など)	205	14.3
	7. 収入が少ないこと(生活費の負担が大きいこと)	263	18.4
	8. 家族や親族間の人間関係のこと	119	8.3
	9. 職場での人間関係のこと	84	5.9
	10. 地域での人間関係のこと	85	5.9
	11. 福祉サービスの費用負担に関すること	161	11.3
	12. お金の管理や契約、相続のこと	157	11.0
	13. 社会的孤立やひきこもりに関すること	62	4.3
	14. 相談相手や緊急時に支えてくれる人のこと	188	13.1
	15. 住宅のこと	185	12.9
	16. 地域の治安のこと	189	13.2
	17. 地震や家事など災害のこと	581	40.6
	18. その他	18	1.3
	19. 特に困っていることや不安はない	125	8.7

「日常生活での悩みや不安」では、「自分や家族の健康のこと」あ 860 人（60.1%）と 6 割となっており、次いで 4 割台に「老後の暮らしに関すること」593 人（46.1%）と「地震や家事など災害のこと」581 人（40.6%）の 2 項目があり、「自分や家族の介護・介助のこと」453 人（31.7%）などとなっている。

問 19 悩みや不安があったときの家族以外の相談相手

悩みや不安があったときの家族以外の相談相手		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 隣近所の人	136	9.5
	2. 知人・友人	864	60.4
	3. 民生委員・児童委員、主任児童委員	31	2.2
	4. 地区福祉委員	19	1.3
	5. 町会・自治会の役員等	32	2.2
	6. 市役所等行政機関の窓口	330	23.1
	7. 社会福祉協議会(コミュニティソーシャルワーカーなど)	55	3.8
	8. 病院などかかりつけの医療機関	348	24.3
	9. 地域包括支援センター	91	6.4
	10. ケアマネジャー	108	7.6
	11. 保育所・幼稚園・学校の先生など	66	4.6
	12. 社会福祉施設の職員	29	2.0
	13. ボランティア、NPOで働く人	7	0.5
	14. その他	38	2.7
	15. 相談相手がいない	141	9.9
	16. 相談しない	147	10.3

他市の調査などでは、「悩みや不安があったときの相談相手」に「家族」を含めると8割を超えてる。今回の調査では「悩みや不安があったときの家族以外の相談相手」としてのいるが、「友人・知人」が864人（60.4%）と突出して高くなっている。

次いでかなりポイントが開いて、「病院などかかりつけの医療機関」348人（24.3%）、「市役所等行政機関の窓口」330人（23.1%）となっている。

他の公共的な機関としては、「ケアマネジャー」108名（7.6%）、「地域包括支援センター」91人（6.4%）、「保育所・幼稚園・学校の先生など」66人（4.6%）、「社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカーなど）」55人（3.8%）となっている。

「隣近所」が136人（9.5%）、「民生委員・児童委員」は31人（2.2%）、「町会・自治会の役員等」32人（2.2%）、「地区福祉委員」19人（1.3%）まどとなっている。

問 20 悩みや不安があるとき手伝ってほしいこと

悩みや不安があるとき手伝ってほしいこと		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 話し相手や相談相手になる	311	21.7
	2. 買い物や食事、掃除や洗濯などの家事の手伝い	180	12.6
	3. 病気などの時の看病や世話	229	16.0
	4. 子どもの世話	92	6.4
	5. 災害時の手助け	527	36.9
	6. 安否確認の声掛けや見守り	226	15.8
	7. 通院などの外出介助、援助	155	10.8
	8. その他	21	1.5
	9. 特にない	446	31.2

「悩みや不安があるとき手伝ってほしいこと」では、「災害時の手助け」が 527 人（36.9%）でもっとも高く、「話し相手や相談相手になる」が 311 人（21.7%）、「病気などの時の看病や世話」229 人（16.0%）、「安否確認の声掛けや見守り」226 人（15.8%）、「買い物や食事、掃除や洗濯などの家事の手伝い」180 人（12.6%）などとなっている。

問 21 福祉制度・サービスの内容についての知りたい情報

福祉制度・サービスの内容についての知りたい情報		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 福祉サービスの種類や内容	956	66.9
	2. サービスの利用方法	789	55.2
	3. サービスを提供する利用者や施設について	344	24.1
	4. 福祉機器や住宅改修について	143	10.0
	5. 地域で行われている福祉活動について	261	18.3
	6. その他	42	2.9

「福祉制度・サービスの内容についての知りたい情報」では、「福祉サービスの種類や内容」が 956 人（66.9%）、「サービスの利用方法」789 人（55.2%）となっており、他の項目に比べて高い数値になっている。

問 22 地域福祉や福祉サービス等の情報発信についてどのようなかたちで充実させていくべきか

地域福祉や福祉サービス等の情報発信をどのようなかたちで充実させていくべきか		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 市の広報紙(「広報いけだ」)	1078	75.4
	2. 市の発行するパンフレットや冊子	477	33.4
	3. 市のホームページ	663	46.4
	4. 社会福祉協議会の広報誌(「いけだの社協」)	151	10.6
	5. 社会福祉協議会の発行するパンフレットや冊子	123	8.6
	6. 社会福祉協議会のホームページ	78	5.5
	7. ケーブルテレビ	105	7.3
	8. 地域の講習会や説明会	86	6.0
	9. 自治会役員や民生委員児童委員、地区福祉委員会などの活動	60	4.2
	10. 回覧板など	239	16.7
	11. 市の相談窓口	298	20.8
	12. 社会福祉協議会の相談窓口や巡回相談	71	5.0
	13. 福祉サービス事業所の相談窓口	85	5.9
	14. 社会福祉協議会による福祉よろず相談窓口	72	5.0
	15. 病院などの医療機関	356	24.9
	16. 薬局	125	8.7
	17. 福祉施設	96	6.7
	18. 保育所	62	4.3
	19. ツイッターやフェイスブックなどのSNS	194	13.6
	20. その他	28	2.0

「地域福祉や福祉サービス等の情報発信をどのようなかたちで充実させていくべきか」については、「市の広報紙（「広報いけだ」）」が 1078 人（75.4%）と突出して高く、「市のホームページ」663 人（46.3%）、「市の相談窓口」298 人（20.8%）とわせると、行政への期待が高いといえる。また、「病院などの医療機関」が 356 人（24.9%）となっている。

次いで、「回覧板など」239 人（16.7%）、「ツイッターやフェイスブックなどの SNS」194 人（13.6%）、「社会福祉協議会の広報誌（「いけだの社協」）」151 人（10.6%）などとなっている。

問 23 福祉サービスを利用する際に心配に思うこと

福祉サービスを利用する際に心配に思うこと

N=1430

		人数	パーセント
有効	1. サービス利用についてどこに相談すればよいかわからない	704	49.2
	2. 利用するための手続きが面倒である	469	32.8
	3. 提供されるサービスに不安がある	130	9.1
	4. 利用できるサービスや施設が身近にない	137	9.6
	5. 費用が負担になる	299	20.9
	6. サービス利用により、親戚や近所の人など周囲の反応が気になる	37	2.6
	7. サービス利用にあたって個人情報に十分に保護されているか不安になる	188	13.1
	8. どのようなサービスがあるかわからない	557	39.0
	9. その他	22	1.5
	10. 特になし	198	13.8

「福祉サービスを利用する際に心配に思うこと」では、「サービス利用についてどこに相談すればよいかわからない」が704人（49.2%）でもっとも多く、次いで「どのようなサービスがあるかわからない」が557人（39.0%）で、「利用するための手続きが面倒である」469人（32.8%）、「費用が負担になる」299人（20.9%）となっている。

問 24 安心して福祉サービスを利用できるように必要なこと

安心して福祉サービスを利用できるように必要なこと

N=1430

		人数	パーセント
有効	1. サービスを適切に選んで利用できるように支援する相談窓口の充実	938	65.6
	2. 福祉サービスの情報提供の充実や勉強会の開催など情報が行き渡る体制づくり	363	25.4
	3. 福祉サービスの第三者による評価体制の充実	314	22.0
	4. 福祉サービスの質の向上のための研修会等の充実	199	13.9
	5. 個人情報の管理の徹底	423	29.6
	6. 人権侵害や金銭トラブルなどの苦情相談の窓口の充実	210	14.7
	7. その他	24	1.7
	8. 特になし	131	9.2

「安心して福祉サービスを利用できるように必要なこと」としては、「サービスを適切に選んで利用できるように支援する相談窓口の充実」が938人（65.6%）と突出して高く、「個人情報の管理の徹底」423人（29.6%）、「福祉サービスの情報提供の充実や勉強会の開催など情報が行き渡る体制づくり」363人（25.4%）、「福祉サービスの第三者による評価体制の充実」314人（22.0%）となっている。

問 25 現在のあなたと福祉との関わり

現在のあなたと福祉との関わり

N=1430

	人数	パーセント
有効 1. 福祉の仕事をしている	78	5.5
2. 自治会、町内会、民生委員児童委員協議会、地区福祉委員会などの地域団体に所属	181	12.7
3. 福祉に関する団体やNPO、ボランティア等の活動をしている	39	2.7
4. 小地域ネットワーク活動に支援する側として参加している	10	0.7
5. 福祉に関する団体やNPO、ボランティア等に募金や寄付をしている	55	3.8
6. 本人や家族が小地域ネットワーク活動による支援を受けている	10	0.7
7. 本人や家族が介護保険や障がい福祉サービスを利用している	200	14.0
8. その他	28	2.0
9. 現在のあなたと福祉との関わり	871	60.9

「現在のあなたと福祉との関わり」では、「現在のあなたと福祉との関わり」が871人（60.9%）と6割を超えている。

また、関わりとしては、「本人や家族が介護保険や障がい福祉サービスを利用している」が200人（14.0%）、「自治会、町内会、民生委員児童委員協議会、地区福祉委員会などの地域団体に所属」が181人（12.7%）となっている。

問 26 池田市社会福祉協議会の認知状況

池田市社会福祉協議会の認知状況

	人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有 名前も活動内容もよく知っている	195	13.6	14.0	14.0
効 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	721	50.4	51.6	65.6
名前も活動内容も知らない	480	33.6	34.4	100.0
合計	1396	97.6	100.0	
欠損 システム欠損値	34	2.4		
合計	1430	100.0		

社会福祉協議会の認知状況では、「名前も活動内容もよく知っている」が195人（13.6%）で、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」が721人（50.4%）と高く、「名前も活動内容も知らない」が480人（33.6%）となっている。

性別と社会福祉協議会の認知状況のクロス表

		池田市社会福祉協議会の認知状況				
		名前も活動内容 もよく知っている	名前は聞いたこと があるが活動 内容はよく知ら ない	名前も活動内容 も知らない	合計	
性別	男性	度数	68	289	242	599
		性別の%	11.4%	48.2%	40.4%	100.0%
	女性	度数	125	427	235	787
		性別の%	15.9%	54.3%	29.9%	100.0%
	その他	度数	0	1	0	1
		性別の%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	193	717	477	1387
		性別の%	13.9%	51.7%	34.4%	100.0%

P<.01

社会福祉協議会の認知状況を性別でみると、女性の認知状況のほうがやや高くなっている。

年齢階層と社会福祉協議会の認知状況のクロス表

		池田市社会福祉協議会の認知状況				
		名前も活動内 容もよく知っ ている	名前は聞いたこと があるが活動内容 はよく知らない	名前も活動内容 も知らない	合計	
年齢別	18～39歳	度数	4	65	113	182
		年齢別の%	2.2%	35.7%	62.1%	100.0%
	40～64歳	度数	67	351	239	657
		年齢別の%	10.2%	53.4%	36.4%	100.0%
	65歳以上	度数	117	285	119	521
		年齢別の%	22.5%	54.7%	22.8%	100.0%
合計		度数	188	701	471	1360
		年齢別の%	13.8%	51.5%	34.6%	100.0%

P<.001

社会福祉協議会の認知状況を年齢階層別でみると、年齢が高くなるほど認知状況も高くなっていることがわかる。

居住圏域と社会福祉協議会の認知状況のクロス表

		池田市社会福祉協議会の認知状況				
		名前も活動内 容もよく知っ ている	名前は聞いた ことがあるが 活動内容はよ く知らない	名前も活動内 容も知らない	合計	
居住圏域	池田・五月丘	度数	41	167	82	290
		居住圏域の%	14.1%	57.6%	28.3%	100.0%
	細郷・秦野	度数	53	135	72	260
		居住圏域の%	20.4%	51.9%	27.7%	100.0%
	呉服・神田・緑丘	度数	52	187	132	371
		居住圏域の%	14.0%	50.4%	35.6%	100.0%
	北豊・石橋	度数	43	184	130	357
		居住圏域の%	12.0%	51.5%	36.4%	100.0%
	合計	度数	189	673	416	1278
		居住圏域の%	14.8%	52.7%	32.6%	100.0%

P<.001

社会福祉協議会の認知状況を居住圏域別でみると、細郷・秦野圏域では「名前も活動内容もよく知っている」の数値が高く、池田・五月丘圏域では「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」の数値が高く、呉服・神田・緑丘圏域と北豊・石橋圏域では「名前も活動内容も知らない」の数値が高くなっている。

問 27 地区福祉委員会が行っている活動で参加したり、知っているもの

地区福祉委員会が行っている活動で参加したり、知っているもの

N=1430

		人数	パーセント
有効	1. 声かけ・見守り活動	299	20.9
	2. 簡単な家事・外出のお手伝い	72	5.0
	3. 友愛訪問・傾聴活動	35	2.4
	4. 支援の必要な人の個別援助	37	2.6
	5. ふれあいサロン	284	19.9
	6. 子育てサロン	282	19.7
	7. 男性料理教室	215	15.0
	8. 高齢者食事会	128	9.0
	9. 世代間交流会	25	1.7
	10. その他	7	0.5
	11. 地区福祉委員会の名前を聞いたことはあるが活動内容はよく知らない	341	23.8
	12. 地区福祉委員会の名前も活動内容もよく知らない	531	37.1

「地区福祉委員会が行っている活動で参加したり、知っているもの」では、「地区福祉委員会の名前を聞いたことはあるが活動内容はよく知らない」が341名（23.8%）ともっとも高いが、それを除くと「声かけ・見守り活動」299人（20.9%）、「ふれあいサロン」284人（19.9%）、「子育てサロン」282人（19.7%）、「男性料理教室」215人（15%）となっている。

問 28 民生委員児童委員の活動の認知状況

民生委員児童委員の活動の認知状況

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	名前や役割、活動内容をよく知っている	156	10.9	11.3	11.3
	名前は聞いたことはあるが役割や活動内容はよく知らない	778	54.4	56.6	67.9
	名前や役割、活動内容は知らない	441	30.8	32.1	100.0
	合計	1375	96.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	55	3.8		
合計		1430	100.0		

民生委員児童委員の活動の認知状況については、「名前は聞いたことはあるが役割や活動内容はよく知らな」がもっともおおく778人（54.4%）で、「名前や役割、活動内容をよく知っている」は156人（10.9%）に留まっている。

問 29 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の認知状況

CSWの認知状況

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	名前も活動内容もよく知っている	73	5.1	5.3	5.3
	名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	374	26.2	27.1	32.4
	名前も活動内容も知らない	932	65.2	67.6	100.0
	合計	1379	96.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	51	3.6		
合計		1430	100.0		

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知状況では、「名前も活動内容も知らない」が932人（65.2%）で、「名前も活動内容もよく知っている」は73人（5.1%）に留まっている。

問 30 生活困窮者自立支援制度の認知状況

生活困窮者自立支援制度の認知状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	内容まで知っている	81	5.7	5.9	5.9
	名前を知っているが内容は知らない	489	34.2	35.5	41.4
	知らない	806	56.4	58.6	100.0
	合計	1376	96.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	54	3.8		
合計		1430	100.0		

生活困窮者自立支援制度の認知状況では、「知らない」が806人（56.4%）で、「内容まで知っている」は81人（5.7%）に留まっている。

問 31 生活困窮者自立支援制度について充実させていくべき内容

生活困窮者自立支援制度について充実させていくべき内容

N=1430

		人数	パーセント
有効	1. 経済的困窮についての相談支援	633	44.3
	2. 就労のための支援	707	49.4
	3. 住宅の確保のための支援	449	31.4
	4. 子どもの学習のための支援	418	29.2
	5. 家計の立て直しのための支援	365	25.5
	6. 医療等の急を要する際の一次的な貸し付け	340	23.8
	7. その他の支援	22	1.5
	8. 特にない	200	14.0

生活困窮者自立支援制度について充実させていくべき内容としては、「就労のための支援」が 707 人（49.4%）でもっとも高く、次いで「経済的困窮についての相談支援」633 人（44.3%）、「住宅の確保のための支援」449 人（31.4%）となっている。

問 32 成年後見制度の認知状況

成年後見制度の認知状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	内容まで知っている	461	32.2	33.4	33.4
	名前は知っているが内容は知らない	528	36.9	38.2	71.6
	知らない	392	27.4	28.4	100.0
	合計	1381	96.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	49	3.4		
合計		1430	100.0		

成年後見制度の認知状況については、「名前は知っているが内容は知らない」が 528 人（36.9%）でもっとも高くなっており、「内容まで知っている」が 461 人（32.2%）で、あわせると 7 割弱の認知状況となっている。

問 33 成年後見制度で知っている内容

成年後見制度について充実させていくべき内容

N=461

	人数	パーセント
有効 1. 成年後見制度の「後見」「保佐」「補助」の3つの類型	240	52.1
2. 後見人等は、財産管理やサービスの契約などの法律行為を支援する	438	95.0
3. 将来に備えて予め後見人を選んでおく「任意後見制度」がある	301	65.3
4. 成年後見制度について相談を受ける窓口がある	195	42.3
5. このなかに知っていることはない	133	28.9

成年後見制度について充実させていくべき内容としては、「後見人等は、財産管理やサービスの契約などの法律行為を支援する」が438人（95.0%）と極めて高い数値となっており、以下、「将来に備えて予め後見人を選んでおく「任意後見制度」がある」301人（65.3%）、「成年後見制度の「後見」「保佐」「補助」の3つの類型」240人（52.1%）となっている。

問 34 成年後見制度の利用意向

成年後見制度の利用意向

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	将来に備えて後見人を選んでおきたい	38	2.7	2.8	2.8
	必要になれば利用したい	590	41.3	43.6	46.4
	利用したいとは思わない	219	15.3	16.2	62.6
	わからない	487	34.1	36.0	98.6
	その他	19	1.3	1.4	100.0
	合計	1353	94.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	77	5.4		
合計		1430	100.0		

成年後見制度の利用意向としては、「必要になれば利用したい」が590人（41.3%）でもっとも高く、次いで「わからない」487人（34.1%）となっている。

問35 市民後見人になりたいか

市民後見人になりたいか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	なりたい	5	0.3	0.4	0.4
	余裕があればなりたい	130	9.1	9.8	10.2
	研修会等があれば参加したい	174	12.2	13.2	23.4
	関心がない	851	59.5	64.3	87.7
	その他	163	11.4	12.3	100.0
	合計	1323	92.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	107	7.5		
合計		1430	100.0		

「市民後見人になりたいか」については、「関心がない」851人（59.5%）となっており、「なりたい」はわずか5人（0.3%）となっている。

問 36 避難行動要支援者名簿の認知状況

避難行動要支援者名簿の認知状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知っている	105	7.3	7.6	7.6
	知らない	1278	89.4	92.4	100.0
	合計	1383	96.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	47	3.3		
合計		1430	100.0		

避難行動要支援者名簿の認知状況は、「知らない」が1278人（89.4%）と約9割が知らない状況にある。

年齢との関係をもてみると、下表のように65歳以上の認知度がや高く、逆に18～39歳の年齢層の認知状況がやや低くなっている。

年齢階層別と避難行動要支援者名簿の認知状況とのクロス表

		避難行動要支援者名簿の認知状況		合計	
		知っている	知らない		
年齢別	18～39歳	度数	6	174	180
		年齢別の%	3.3%	96.7%	100.0%
40～64歳	度数	44	606	650	
		年齢別の%	6.8%	93.2%	100.0%
65歳以上	度数	51	464	515	
		年齢別の%	9.9%	90.1%	100.0%
合計	度数	101	1244	1345	
		年齢別の%	7.5%	92.5%	100.0%

P < .05

問 37 あなたがもし災害時に避難誘導などの支援が必要な場合、だれに支援を求めるか

災害時に避難誘導などの支援が必要な場合、だれに支援を求めるか		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 家族	1046	73.1
	2. 隣近所の人	672	47.0
	3. 知人・友人	545	38.1
	4. 民生委員児童委員、主任児童委員	83	5.8
	5. 地区福祉委員	115	8.0
	6. 町会・自治会の役員等	178	12.4
	7. 自主防災組織の人	188	13.1
	8. 市役所など行政機関の職員	439	30.7
	9. 社会福祉協議会の職員(コミュニティソーシャルワーカーなど)	124	8.7
	10. 病院などかかりつけの医療機関の従事者	179	12.5
	11. 地域包括支援センターの職員	102	7.1
	12. ケアマネジャーなど	117	8.2
	13. 社会福祉施設の職員	98	6.9
	14. その他	21	1.5
	15. 手助けを希望しない	31	2.2

「災害時に避難誘導などの支援が必要な場合、だれに支援を求めるか」については、「家族」が1046人（73.1%）で突出して高く、次いで「隣近所の人」672人（47.0%）、「知人・友人」545人（47.0%）、「市役所など行政機関の職員」439人（30.7%）などとなっている。

問 38 災害時などにあなたは手助けするか

災害時に手助けに参加するか

		人数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	自発的に参加する	341	23.8	25.5	25.5
	自治会・町内会・自主防災組織から要請があれば参加する	288	20.1	21.5	47.0
	行政(市)から要請があれば参加する	125	8.7	9.3	56.4
	参加しない	373	26.1	27.9	84.2
	自分が要支援者であるため参加できない	63	4.4	4.7	88.9
	わからない	148	10.3	11.1	100.0
	合計	1338	93.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	92	6.4		
合計		1430	100.0		

「災害時などにあなたは手助けするか」については、「自発的に参加する」が341人(23.8%)に対して、「参加しない」が373人(26.1%)となっている。

問 38⇒4 参加しない理由

N=373

		人数	パーセント
有効	自宅に自力で避難できない人がいる	48	12.9
	自分自身の避難で精一杯	97	26.0
	隣近所のことがよくわからない	32	8.6
	日中、外出して不在が多い	40	10.7
	そういう気持ちになれない	9	2.4
	その他	19	5.1
	合計	245	65.7
欠損値	システム欠損値	128	34.3
合計		373	100.0

「災害時などにあなたは手助けに参加しない理由」としては、「自分自身の避難で精一杯」が97人(26%)、「自宅に自力で避難できない人がいる」48人(12.9%)、「日中、外出して不在が多い」40人(10.7%)の順になっている。

問 39 災害時に支え合う地域づくりに向けて必要な取り組み

災害時に支え合う地域づくりに向けて必要な取り組み

N=1430

	人数	パーセント
有効 1. 日頃からの顔の見える関係づくり	769	53.8
2. 地域で災害時に手助けを必要とする人・世帯を把握しておく	725	50.7
3. 自主防災組織の活性化	236	16.5
4. 定期的な防災・避難訓練の開催	351	24.5
5. 防災に関する講座や講習会の開催	257	18.0
6. 地域で避難方法や避難場所を決めておく	641	44.8
7. 地域で食料や生活必需品等を準備しておく	501	35.0
8. その他	18	1.3
9. 特にない	94	6.6

「災害時に支え合う地域づくりに向けて必要な取り組み」としては、「日頃からの顔の見える関係づくり」が769人（53.8%）でもっとも多く、次いで「地域で災害時に手助けを必要とする人・世帯を把握しておく」725人（50.7%）、「地域で避難方法や避難場所を決めておく」641人（44.8%）、「地域で食料や生活必需品等を準備しておく」501人（35.0%）となっている。

問 40 地域で安心して暮らせるようにあなた自身でできそうなこと

地域で安心して暮らせるようにあなた自身でできそうなこと		N=1430	
		人数	パーセント
有効	1. 話し相手や相談相手	372	26.0
	2. 見守り活動や安否確認の声かけ	359	25.1
	3. 食事、掃除、洗濯などの家事手伝い	69	4.8
	4. 買い物の同行など買い物支援の活動	115	8.0
	5. 病気などのときの看病やお世話	33	2.3
	6. 通院などの外出介助、援助	80	5.6
	7. 子どもの世話	129	9.0
	8. 弁当などの配食	96	6.7
	9. 子ども食堂など食事会の手伝い	163	11.4
	10. サロン活動などのお世話係	80	5.6
	11. 地域で行う行事の準備や参加	207	14.5
	12. 災害時の救助活動や避難の支援	268	18.7
	13. その他のボランティア活動	24	1.7
	14. 寄付や募金	221	15.5
	15. 普段の生活において福祉への関心を持つようにする	403	28.2
	16. 福祉に関する講座などに参加する	150	10.5
	17. 地域の福祉についての懇談会などに参加する	65	4.5
	18. その他	25	1.7
	19. 特にできることはない	309	21.6

「地域で安心して暮らせるようにあなた自身でできそうなこと」では、「普段の生活において福祉への関心を持つようにする」が403人（28.2%）でもっとも多く、次いで「話し相手や相談相手」372人（26.0%）、「見守り活動や安否確認の声かけ」359人（25.1%）となっており、この3項目が20%を超えている。

このほか「災害時の救助活動や避難の支援」268人（18.7%）、「寄付や募金」221人（15.5%）、「地域で行う行事の準備や参加」207人（14.5%）などとなっている。